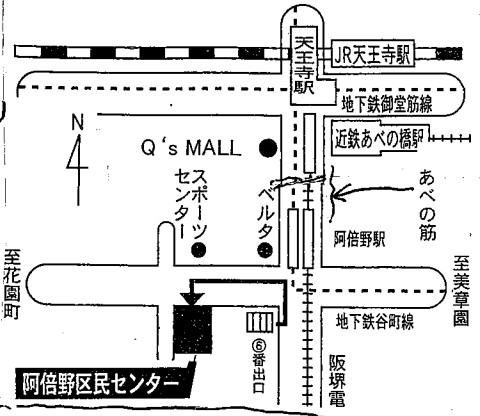


大阪フロイデニュース

Freude

vol. 13 - 57 2020. 9. 30. wed

10/7 (水)
18:30~
阿倍野
区民
大ホール



お客様関連・これからの予定

みなさん！チケット確認のご協力ありがとうございました！ またキャンセル分に関して多くの方から「払い戻し不要」としてカンパをいただき、感謝しています。カンパいただいた金額については、最終の来場予定数など全体の集計が済んだら、みなさんにご報告します。モロモロ作業に時間がかかってます、しばらくお待ちください。

今日は、お客様関連の作業状況と、みなさんに協力いただく内容をお知らせします。

●チケット再配席作業：現在作業中～10月上旬くらい

チケット係の宮下さんに作業していただいています。先日の緩和により「一席おきの着席」制限がなくなったので、概ね現在の座席での着席が可能。ただし、ステージに近い3列分は感染防止の観点から空ける必要があるため、該当席を移動し、且つ、全体の粗密のバランスで若干の変更をします。変更する場合は、S・A・Bの同ランクか、ランクアップでの変更となります。(ランクアップの場合も、主催者側の都合での変更なので、追加料金等はいただきません。) 再配席作業後「当日用座席券」を作成します。

●「当日用座席券」と「当日のお願い」の団員への配付：10月中旬くらい

お客様への「当日用座席券」と「当日のお願い」を、団員のみなさんに配ります。

「当日用座席券」は変更の有無にかかわらず全員に配ります。当日は、旧チケットと新座席券の両方を持ってきていただき、旧チケットを来場時に回収箱にそのまま入れてもらいます。(感染対策上、チケットの半券もぎりは致しません) お客様は新座席券の番号で着席してもらいます。団員のみなさんへは、それぞれの来場予定分の「座席券&お願い」を渡しますので、各自からお客様に渡してください。郵送や手渡し難しい方は、券を写メしてメール送付でも構いませんが、必ず当日、プリントアウトして持ってきていただくよう、お伝えください。「当日のお願い」にも書きますが、来場時には両方のチケットを持っていることをいずみホールのスタッフが目視確認します。

●来場者名簿作成協力のおねがい

万一の際の緊急連絡用に、スタッフ・出演者名簿(名前と連絡先)はもちろん、今回はお客様名簿も作成します。ご協力おねがいします。今回練習に來れていない団員のみなさんへは団長から個別に連絡しますので、ご対応ください。なお、緊急連絡の場合は「ホール→団長→団員→お客様」の流れでの連絡となりますので、お客様ご自身の連絡先提出が難しい場合は、担当団員の名前を書いていただく形でもかまいません。よろしくおねがいします！

以上、いろいろとお願い事ばかりでゴメンね m(_)_m お客様に、できる限り安心して演奏会を楽しんでいただきたいので、なにとぞご協力よろしくです！

いず

神戸、大阪両フロイデ合唱団常任指揮者 亀井 正比古さん



生の音楽の火を消さないために

日本で年末にベートーベンの交響曲第9番合唱付き(第九)の演奏会が定着したのは、第2次世界大戦直後の1947年12月だった。現在のNHK交響楽団が3日連続の「第九」演奏会を開催し、多くの聴衆を集め、オーケストラにとって安心して正月を迎えるための収入になったから、と言われている。

私が71年より常任指揮者を務める神戸フロイデ合唱団は、61年に第九演奏会に参加して以後、昨年まで52回の公演を行ってきた。

アマチュア合唱団の主催する「第九」、「ミサ曲」、「オラトリオ」などではオーケストラ、独唱者が出演を依頼され、このジャンルの貴重な経験とともに、経済的にも大きな助けとなっている。しかし、今回の新型コロナウイルスの影響を受け、多くの演奏会が中止、延期され、苦しい闘いを強いられている。

神戸フロイデ合唱団は、95年の阪神・淡路大震災の1カ月後には練習を開始。8月にはほとんどのホールが被災し使用できない中、神戸・ポルトアイランドにあるアシックスの体育館の多大な協力を得て、コンサートが実現できた。その後、毎年夏には追悼コンサートを開いてきたが、ついに今夏は1年延期となってしまった。

約4カ月の休止期間の間、数回にわたってアンケートなどで団員の意見を収集し、7月には半数以下ではあるが、七十数人の参加で練習を再開させることができた。現在は新入

団員も数人迎え、12月の第53回「第九コンサート」に向け、万全の対策を取りながら練習を進めている。一部には、休止期間は楽譜を勉強したり、いろいろな音楽を聴いたりする充電期間だとする考えもあるようだ。4カ月のブランクは大きい。ある程度の年齢になって時間的余裕があり、参加できる人たちの平均年齢がどんどん高くなってきたアマチュア合唱団では、週1度の練習で歌うのが精一杯だ。ましてやマスクを使っている歌唱は、今までは違う発声方法も研究しなければならず、元に戻すには予想以上の努力と時間を要する。集まって練習できる喜び以上に、今までは異なった響きの音楽作りの苦勞を味わっている。

ホールの客席定員を減らし、舞台上の配置を考慮してのコンサートは、対策として当然ではあるが、入場料金を考えると赤字覚悟で取り組みなければならぬ。

一人でも多くの方に聴いていただきたい、利益を求めず少しでも安く聴いていただきたい、とした今までは真逆の形で今後、何度もコンサートを開催するための体力はない。しかし工夫や方法を探りながら、我慢と努力を続ける必要がある。

芸術・文化活動は、経済的な効果との関連がほとんど現れないが、今こそ公的支援の必要性を感じる。心に潤いをもたらすに違いない生の音楽の火を消さないよう、そして未来の希望の光を諦めず、閉塞感を乗り越えて、一歩ずつ前に進みたい。

かめい・まきこ 1949年大阪市生まれ、神戸市在住。神戸、大阪両フロイデ合唱団常任指揮者。日本音楽家ユニオン、関西音楽家クラブ会員。これまで関西の主要オーケストラと共演。神戸初演の名曲にも意欲的に取り組んでいる。